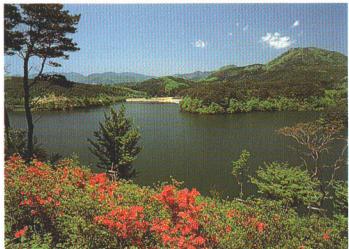


思い、わさびの根を掘り起こしてみた。が、まだそれは充分に育ち切っていない、わさびの子供であった。森には、守るべき森の秩序がある。そつとそのまま、子供を土に帰した。

沼の水をくつてみる。このところ雨がなかつたこともあり、本当に透き通るような美しいさだ。ここでは水筒などいらない。ぐい、と手ですくい飲み干した水が、疲れた体の隅々にまで染み渡る。遠い昔、人の祖先は森に住み、いつしか新たな可能性を求めて森を離れていた。しかし、それが人にとつて本当に幸せであったのか。こうして、祖先が暮らした森の懐かしい記憶に抱かれていると、そんな想いがわきあがつてくる。



NAGANUMA GREEN PARK



緑の香り。

